

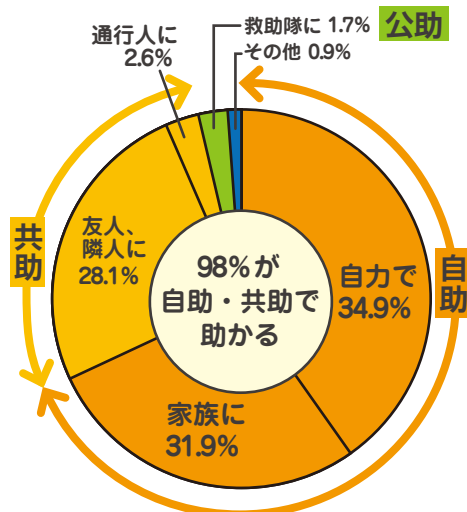
第4章

地域での防災活動に参加しましょう

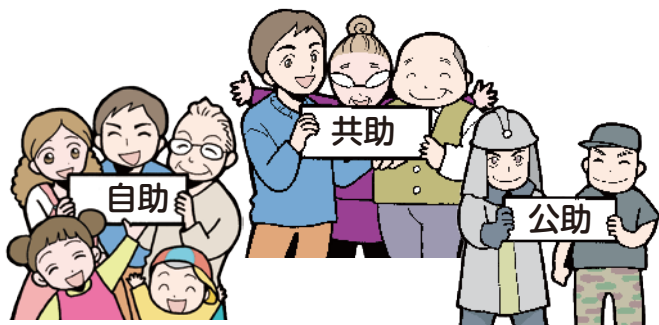
自助・共助が命を救う！

阪神・淡路大震災で生き埋めになった人たちが誰によって救出されたか？

阪神・淡路大震災では、生き埋めになり救助された人の98%が自助と共助で助けられました。一方、公的機関によって生存したまま救出された人はわずか1.7%という記録が残っています。



(社)日本防災学会：「兵庫県南部地震における防災に関する調査報告書」より



災害被害を軽減するには、これらの連携が重要です。

自助：自分（家族）の命を自分（家族）で守ること
共助：地域の皆さんで互いに助け合うこと
公助：国や市の行政機関が対策を行うこと

あなたの持っている力を活かそう

町内には、いろいろな技術や道具を持った人、まちのことを熟知している人など様々な人たちがいます。災害時には、そういった技術や道具や知恵などが役に立ちます。あなたもきっと何かの力があるはずです。いざという時にできることをご近所で話し合っておきましょう。また、ジャッキ、ボール、フォークリフト、リヤカーや建設機械などを持っている事業所が近所があれば、災害時に提供してもらえよう事前に働きかけましょう。



<労力や時間を提供>

在宅被災者・避難所・地域での作業で、清掃・運搬・配給・炊き出しなどの労力の提供



<物資や資機材の提供>

救援物資、救助・復旧用資機材の提供



<場所を提供>

一時避難場所、ボランティア休息所、物資倉庫、駐車場などの提供



<技術や知恵を提供>

専門知識、資機材の使い方など、ノウハウの提供



<情報通信ができる>

インターネットなど、必要な情報のやりとり



<その他>

レクリエーションの指導、子どもの世話など

